



## 一人ひとりが地域で輝いていくために パーソナルサービスセンター・トムトム（茅ヶ崎市）

「パーソナルサービス」は、それぞれの暮らしや要望に合わせて、利用者が福祉サービスの内容を決定していくこと。アイヌ語に由来する「トムトム」には、地域で輝いていくという意味が込められています。今回は、ハンデイのある方とその家族を対象にした会員制のパーソナルサービスセンター「トムトム」を訪ね、代表の上杉桂子さん、副代表の田尻順子さん、会話を担当する藤田里恵さんにお話を伺いました。



アパートの1階のアットホームな雰囲気です  
http://www05.u-page.so-net.ne.jp/gf6/tom-tom/

### 地域であたり前に暮らすこと

地域の中で自立して生活していくために、余暇支援は大きな意味をもつ。知的障害児や肢体不自由児の親の会のメンバーなどが協力しあって、開催した「障害児の支援セミナー」での一つの結論がきっかけとなり利用者・市民が自主的に運営する「トムトム」は誕生しました。

会員は、運営に携わることのできる「正会員」、パーソナルサービスを利用する「利用会員」、学童クラブを利用する「学童クラブ会員」、「賛助会員」で構成されています。利用者は約三十人。一日五件から六件の利用があり、一カ月約三百時間を六人のスタッフ（職員二人、非常勤職員六人）で対応しています。

サービス内容は、日常生活のサポート、通院・通学など外出時の送迎やガイドヘルプ、学童クラブ、宿泊と個人の希望で様々です。

サービスを利用している子どもたちの母親で、運営にも携わる三

人はそれぞれの思いを語ります。

「二十四時間、三百六十五日、好きな時間に利用者本位のサービスが受けられる、対象者の制限もない、施設感もないというのが大きな特徴です」と上杉さん。

「今までの活動を通して、健常児が成長するのと同様に、社会性を身につけるうえで、余暇の必要性を痛感しました」と田尻さん。

「家に閉じこもりがちな子が、ここを利用するようになって積極的になりました。家族の負担も軽減されています」と藤田さん。

「家族が抱え込むのではなく、社会的責任において、第三者が支援する体制が必要だと思えます。親が世話をしていくのが当然だという環境は変えていくべきです。『地域の中で自立した生活を』とよく言いますが、療育だけで十分とは言えないと思うのです」と三人は異口同音に答えます。

夏休みには一週間をグループ単位で生活する「サマースクール」も開催しています。また、十月からは、新たな場所に拠点を移し、利用者が納得したサービスが受けられるよう「体験利用」も開始しました。利用料の設定やスタッフ不足など課題も残りますが、今後の活動が期待されています。

☎ FAX 0467-58-8335

### —社会福祉施設的设计監理—

株式会社 **安江設計研究所**

YASUE & ASSOCIATES'Inc.

代表取締役 **安江知之**

本社 東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代)

FAX03(3449)1772

横浜事務所 横浜市新奈川区六角橋2-14-27-306

TEL045(433)8270